

令和4年度 第3回学校協議会 会議録

1 日 時 令和5年3月27日(月) 18時30分～19時15分

2 場 所 産業高校会議室

3 出席者

(1) 学校協議会委員 (50音順 敬称略)

| | |
|---------------|------------|
| 産業高等学校元PTA会長 | 池内 美智子 |
| 岸和田市立中学校校長会会長 | 池内 容子 |
| 産業高等学校同窓会副会長 | 北野 好美 |
| JFE継手株式会社 | 信貴 政則 |
| 産業高等学校PTA会長 | 吉田 なおみ(欠席) |

(2) 学校(事務局)

| | |
|-------------|-----------|
| 校長 | 大西 敦子 |
| 全日制教頭(司会) | 安井 孝 |
| 定時制教頭 | 榎本 正広 |
| 全日制教務部長(首席) | 齋藤 良房 |
| 事務長(記録) | 田中 幸博(欠席) |

4 次第

(1) 校長挨拶

今年度もいよいよ終版に入ってまいりまして、慌ただしくしている状況です。入試の方は商業・情報はなんとか超えましたが、特別入試のデザインシステム科が定員割れをしてしまいました。中学校で、どういう動きが出ているのかとういことも含めてまたお伺いできたらなと思っているところです。

少子化において、専門学科に対する風当たりが非常に厳しい状況の中、なんとかこの大阪南部で、商業科、情報科、デザインシステム科、この3学科を要する学校として頑張っていかなければいけないと思っています。また、皆様のお知恵を色々と拝借できればなと思っておりますので、どうぞご支援のほどよろしくお願い致します。

今年度は、行事的なものはなんとかコロナ前の状態に近づけることができたと思っています。学校行事の中でも最大の行事の一つである修学旅行につきましても、今年の3年生は2年生で行けなかったのですが、3年生の12月に行くことができました。2年生につきましては予定通り2月に、定時制の方も1月に、北海道にスキー・スノボの修学旅行に行くことができまして、なんとか行事の方も元に戻りつつあると思っています。あと産高祭につきましても、以前と同じではないのですが、かなり近づけたかなと思っています。マスクについては政府から着用を求めない方針が出されております。卒業式については、卒業生と教職員は基本的にはマスクを外すという方針で臨みましたが、中々生徒達もマスクを外したがらず、ほとんどの生徒がつけ

ていたような状況でした。4月からは学校現場でも基本的には外す方向で、徐々にではありますけれども、学校生活のほうも戻りつつあると思いながらこの年度末を過ごしているような次第です。

今日は、今年度の学校教育自己診断の結果分析となります。今年度1年間の生徒達の学校に対する思いをご説明させていただきますので、ぜひ皆さんの忌憚のないご意見を頂けたらと思っております。どうぞよろしくをお願いします。

(2) 会長挨拶

年度末のお忙しい中ありがとうございます。校長先生から説明がありましたが、行事が順調にコロナ前に戻ってきているということです。4月以降入学式も通常通りということで、そういった行事がきちんと子どもたちにとって問題なく制限なく出来ることを願っています。

今から次第に従って進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いします。

(3) 「令和4年度学校教育自己診断」結果分析

◇全日制（齋藤首席）

- ・「令和4年度学校教育自己診断 目標設定」は、令和3年度の数字とカッコ内に令和2年度の数字を掲載したものである。これを基にして今年度の調査を行った。
- ・全体的にカッコ内の数字よりも、令和3年度の数字の方が上がっている。この中で80%に満たないものが3項目あった。
- ・共通の13項目は、それぞれ保護者の方々、生徒の皆さん、あと教職員へという形で行っている3つのパターンの自己診断の中から、共通と思われる項目を抜き出して、特に生徒の回答をそこに集約したものになる。
- ・あてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、あてはまらない、この4つの数値をパーセントに起こし、勿論無効の回答があり、全て合わせても100%にならないが、あてはまるとややあてはまるを合わせたものを書いている。
- ・そのうち特に網掛けになっている3つの項目を80%以上に引き上げるべく1年間取り組むということで、コメントをつけていた。
- ・前は、相談体制、教科指導の充実、生徒指導についてのみ80%を割り込んでしまうという結果を受けたので、この3項目についてのコメントを書き、今年に臨んだ。
- ・今年度の生徒用の学校教育自己診断票の結果は、数値で答えてもらう全ての項目を記載している。ここでAB合計並びにAB昨年と右端に書いているのが、あてはまるとややあてはまるのAとBを合わせた数値になる。
- ・AB合計の数値が今年度の自己診断で得たパーセントの数字ということなので、AB昨年と書いている数値が、目標設定のところに書いている数値と一致している。
- ・「比」のところの今年度は、わずかなものが多いが数値が下がっている項目が非常

に多い。

- ・本校では、策定会議の中で、この内容について分析をしている。生徒用の分析にあたった4名の先生からの意見として、「分析」という項目でコメントを書いている。
- ・欄外は、全体として昨年度より数値が下がっていること。これが一つ上げられる。そのうえで、更に1年生の回答が厳しくなっている。こちらについては、本校への期待が大きかったからこそ、数値として出した結果がきつくなっただけではないかと分析グループでは分析している。
- ・中でも「比」のところの数字が大きく落ち込んでいるところが、26番の項目「学校の施設・設備がこわれたときは、すぐに修理される。」という項目であるが、設備が壊れた時にすぐに修理されるということ、そもそもの設備が古くなっているということが、生徒の中でない交ぜになってしまった結果として出ている部分が多少あるかと思われる。分析のコメントに、机のがたつきや西棟の床の傷み具合、あるいは、中央棟のトイレ改修などについてのことがない交ぜになっているところが伺えるかと思う。本来こちらが聞きたかったところと、それから生徒に答えてもらった内容とは、少し食い違っているのではないかなと思うが、前回の76%が、今回68%に下がってしまっているため、ここについてはまた改善を要する部分と思っている。
- ・次に大きく下がっているところが、16番でマイナス6になっている。「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある。」という項目である。この学校教育自己診断行った時期が、2学期の試験の終わりであった。その学校教育自己診断を行った後に、1年生対象の進路行事があった。その部分については、そういったこともあり回答に影響が出ていると思っている。
- ・例年こちらの部分については、学年が上がるにしたがって評価が高くなっているというところがある。もちろん他の診断内容についても学年が上がるごとに評価が高くなっていくというところは見受けられる。生徒達が高校生活になじむ中で、高校での評価というのがこのようなものなのだとこのところを彼らなりに理解していった結果として自己診断を受けた時の答えというのがだんだん変わってくるというところも見受けられる。
- ・それからマイナス5となっている項目が2つある。診断内容の5番、「わかりやすく、教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い。」は、コロナ禍を経験する中で先生方にもICTが浸透した結果、例えば、スライドショーなどを多用した授業が、コロナ前に比べてずいぶん増えた。当然黒板に板書をしながら進める授業よりも早くなる。スライドを見ながら次から次へ進んでいく、あるいは、学校、学級閉鎖などを通じ、いつ閉鎖になるかわからないところから、しっかりこの内容だけをしておかねばならないといったところもある。そういったところで、スライドショーなどを多用して行われる授業の中で、どうしても新しい専門教育については、解

りにくいという意見がでてきていると、我々は感じている。このあたりは、今年から導入された新しい評価基準に従っての学校教育に我々も対応していく中で、生徒の意見を参考により良い授業づくりに努めていかなければならないと思っている。

- ・ もう一つ、マイナス5となっている項目の24番「学校で地震や火災などの災害がおこった場合、自分のいる場所からの避難経路が具体的に知らされている」は、もちろん本校でも避難訓練を行っており、避難経路も教室等に張り出している。ただ、避難訓練は年に2回なので、分析のコメントにある、今後も避難経路の確認を折に触れ伝えていかなければならないと言う部分は感じている。
- ・ マイナス7の20番「生徒会活動は積極的に行われている。」は、生徒会選挙にあたり、生徒達は積極的に、私はこんなことがしたいということを生徒達に対してアピールする。ただ、それが、できることとできないことがどうしてもあり、特にコロナ禍、生徒たちの力だけでは中々できないことも公約に掲げてしまっていることがある。そういったところで中々評価がしづらいと、また、生徒会活動というものが、本校の場合は、表立って行われているということが確かに少ないところではある。そういった面があってこのような結果になっていると思っている。
- ・ 今年度から新しく構えた項目が31番で、3年生に対してのみ加えた項目になる。特に今回の卒業生については、3年間をほぼまるまるコロナ禍の中で過ごしたということになる。部活動や行事もままならない中で、はたしてこの産業高校にやってきて高校生活を充実したものと捉えてくれているのだろうか、というところを踏まえ「卒業が近づいた今、産業高校に入学してよかったと思う。」という項目を加えた。結果は、よくあてはまる、ややあてはまる、この2つで88%を獲得することが出来た。3年生のみに新設した質問ではあったが、3年生にとっては高い満足度を得ることができたというところで、我々自身も安堵している。
- ・ 増えているところは、微増にとどまっている。
- ・ 生徒の自己診断結果については、1年生2年生3年生と学年を経るごとに、評価は上がってくるというところがあるが、今年度については、1年生による評価が少し低かったなと感じている。これらのことを踏まえ、また次年度以降の目標設定に生かしていきたいと考えている。
- ・ 学校教育自己診断保護者用の結果は、同じくあてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、あてはまらない、そして保護者の方には、どうしてもよくわからないというところもあり、よくわからないという項目をつけている。
- ・ この中でも下がってしまった項目がいくつかあり、まず9番目の「産高が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。」が78%と大きく割り込んでいる。前年度の88%から比べると、大きく下がった。こちらについては、17番の項目「生活指導面で、産高は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている。」ここでもマイナ

ス6%ということで、数字が落ち込んでいる。この2つについては、保護者の方に対しての高校生活が学校からどのように発信されているのかというところが、中学校と高校では根本的に異なるというところも多少あるのではないかと考えている。昨今は、メール等を通じて保護者の携帯電話に直接中学校からの連絡がいくことが多い。高校になると、まずは生徒に対しての連絡が行われ、そして生徒から保護者への連絡が行われる。このプロセスも重視しているところがある。生徒たちの口から保護者の方へ学校の様子が伝わっているということが、中学校時代に比べると減っていること、さらに、学校の連絡が、直接保護者の方へ行くということが、中学校に比べると減っていることが、結果にも影響していると考えている。ただこれについては、今の時代に即した形で様々な情報をすべて保護者の方へ直接配信するのが良いかというところ、そうとは限らないと考えている。次年度以降、取捨選択をしながら子供たちに情報を伝えるにあたって、どういったところに注意していけばいいのかといったことも考えながら学習活動を行っていかなければならないと感じている。

- ・生活指導と、高校生活全般に関するところで、13番の項目も11%から6%ということで、先ほどの生活指導に関わる場所と同じ結果になっている。「学校生活の様子や情報がお子さんを通じて伝わっている。」という部分である。こちらのほうが、お子さんに対して情報を発信しそれを保護者に伝えてもらうことを主眼と置くところもあるので、これからまた、生徒に対してもしっかりと伝えていかなければならない内容と考えている。
- ・総合すると、非常に去年と比べると下がっているのではないかとこのところが多くて、お叱りをうけるかと思うが、まずは、生徒たち自身が、例えば、学校へ行くのが楽しいという項目で80%を超えた生徒達が、コロナ禍においてもそういった数字を出してくれているといった部分については、我々も評価できるのではないかなと考えている。コロナ禍で活動が制限され学習がなかなか思うように進まないといったところでも、例えば、先ほどの学校へ行くのが楽しいというところは、昨年度及び今年度両方とも81%で数値的には変化はない。また、他の学校にない特色があるといったところも、そもそもの数値が91%ということで、非常に高い数字を得ている。こういった生徒たちが本校の専門性を理解しそのうえで、本校へ来るのが楽しいと感じてくれていることが、何よりかと思っている。
- ・本校の良い部分を大事にしながら、及ばなかった部分、昨年度から数値を落としてしまった部分についてはより一層努力をして、皆が楽しく生き生きと活動できるような学校にしていければよいなと感じている。
- ・なお、この結果につきましては、各分掌、教科また学年のほうでフィードバックを行い、次年度の目標設定にそれぞれ役立てると共に、策定会議でも次年度の目標設定に生かしていきたいと考えている。

○質疑応答

(委員) 回収率は7割から8割ありますか。

(事務局) それほどはっていないと思います。

(委員) 限られたメンバーになってくるんですね。説明があったように、やっぱり1年生が低いというのは、言っていたように、中学校時代と比較されているということでしょうか。

(事務局) そこはあるかと思いますが。保護者の方々のご意見も生徒と同じように年を経るごとにというふうになっているのが、見ていただいたらお分かりになるのかなと思います。○と◎の数の方が1年2年3年で変わってきているというのが、ご覧いただけたらと思います。

(委員) 15番の「アルバイトに関しての産高の指導方針に共感できる。」というのは、どんな方針でしたか。

(事務局) アルバイトに関しては、保護者の方々に委ねておまして、学業に影響のない範囲の中でアルバイトをしてくださいということです。例えば、生活指導部に許可申請を出して許可をもらい行うとか、そういったことは行っておりません。

(委員) 私達の時代でしたら、親から、何か学校の連絡ない?とか、言ってもらわないと忘れるからとか、そういう家庭の状況もあって、今は女の人もお母さん方も忙しくて、それでも学校に行くのが楽しいという数値は素晴らしいと思います。小中でしたら近くの親同士は話しますが、高校になると近くに同じ高校の子がいればだいたい情報はわかりますけどね。でも、この表を見ると、なかなか良いほうだと思いますけどね。

(委員) 毎回聞かせていただきますけど、感心しますよね、数字が高いのが。31番、これだけ評価していただいて卒業している。今年初めて卒業式に参加させていただきましたけれども、ふざけることもなくきちっと卒業されていく皆さんを見ていますと、ほんとに評価はわかります。皆さん満足して卒業されていくというふうに思いました。

(委員) 今年は、定時制の生徒の答辞に涙がでましたね。感動しました。学校生活を味わえた。

(事務局) 全日制は、特に今年度の3年生については、2年時に修学旅行に行けなかったというところもありまして、それが3年生になってようやくかなって、修学旅行へも行けました。進路の方も、おかげさまで就職先も減ることなくいただいております。また色んな学校へも行けております。ただ、進路が多様化、あるいは、進学が増えている一方で、進路指導部の負担というのが増大してきているところがあるのかなという具合に感じます。ですので、行事の見直しなんかも言われているところです。どうしてもその進路に向けて一生懸命頑張らないという時期に行事が重なってしまうと3年生としては厳しい状況があります。じゃあ

どうしたらいいのかなというところで我々もこれから考えていかななくてはならない部分であるとは思っているところです。

◇定時制（榎本教頭）

- ・まず「令和4年度 学校教育自己診断 目標設定と結果」をご覧ください。この目標は令和3年度の結果をもとに設定したものです。この目標設定は生徒に対して行った学校教育自己診断の29項目を同類の項目を11項目にまとめたものです。令和3年度の結果を見ると「学校生活の充実について」「ホームルーム、学校行事の参加について」の肯定率が60%台とやや低かったが、60%台に乗ったのは令和3年度からで年々向上してきている。すべての項目で肯定率が60%を超えることを目標に教育活動を展開しているところです。
- ・コロナ1年目の令和2年度は修学旅行をはじめ様々な教育課都度を縮小せざるを得なかった事情を反映して自己診断の結果はあまりよくなかったが、令和3年度は行き先を変えての修学旅行が成功したことや新たな行事を工夫したこと等により生徒の評価も上昇し、目標設定のすべての項目で目標を達成した。令和4年度は1項目のみ肯定率が75.8%であったが、4項目が80%台、6項目が90%台と例年に比べ突出した結果となった。75.8%であったのは「ホームルーム、学校行事の参加について」であるが、本校入学前に不登校を経験している生徒が大多数を占める中でよく頑張ってくれているとおもっている。来年度もできるだけ継続できるよう努力していきたい。
- ・「令和4年度 学校教育自己診断 生徒」は先ほど説明しました目標設定の項目のもとになった29項目で、より詳しく生徒の評価が読み取れる。一番弱いのが「部活動や放課後の諸活動に積極的に参加している」で肯定率が37.1%であった。それ以外は目標の60%を超え90%台のものも多く、学校生活が充実していたものと思われる。クラブ活動については授業が終わる21時5分以降となるため十分な時間をとって活動できない。今後とも工夫していければと思う。
- ・「令和4年度 学校教育自己診断 保護者」については、ほぼすべての保護者の方に来ていただいている3者懇談時に回答していただいているので、回収率はほぼ100%である。「自分のクラスが楽しいと言っている」のみ77.4%と少し低めの数字が出ているが、14項目が100%、他も80%以上と、大変好意的に答えていただいていると思われる。
- ・「令和4年度 学校教育自己診断 教職員」については、教職員自身が教育活動についてのあたりが弱いと感じているのかがよく分かる。ただし、定時制の教職員は管理職を除いて13名と少数なので、年度によって数字の変動が大きい。年度末の反省会でこれをもとに今後どう対応していくのかを検討する。
- ・定時制では教職員の入れ替わりの時期を迎えていて、若い先生方が新しい目で改革を進めていってくれている。例えば、令和3年度から野外体験活動を取り入れ2年間続けた。来年度からも新入生については仲間づくりという観点で続けていくが、他の学年は班行動の訓練を兼ねて神戸方面の散策を考えている。こういうふうにならぬ新たな取り組みが生徒に

うまく浸透し、よい方向に動いたと思っている。来年度も今年度ほどよい数字が出るとは思っていないが、何よりも生徒が学校に来て楽しい、卒業するとき本校で学んでよかったと思ってもらえるような学校づくりができればと考えている。

○質疑応答

(委員) 令和4年度はすごくできがいいですね。

(事務局) もうこれ以上はないというくらいです。昨年度も良かったんですが。

(委員) ムードメーカーの生徒さんがいるんですか。

(事務局) 生徒を1年間見ていて、欠席とか問題行動とかは少なかったです。非常に安定していた年であったのかなと。きっとまた悪い年もやってくるとは思いますが、一定の安定した水準が保てればと思っています。

(事務局) 人数も減ってきていて、ほんとに落ち着いていて、昔のイメージはないですね。

(事務局) 人数が減ってきているのが一番の悩みでして、8年前は、2クラス規模で70名近く各学年に生徒がいました。そういう時代から今、各学年1クラスで10人台です。昨年度は入試で入っていただいた生徒が12名、今年度の一般入試で22名ということで、数が増えまた賑やかになるなど楽しみにしております。

(委員) ほぼみんな現役ですか。結構高齢者の方もいたりとかしますか。

(事務局) 今までは、60代、30代の方とか各教室に一人ずつくらいしかいなかったんですけども、この1年生については、すごく高齢な方はいませんし、現役も過半数はいますが、年齢構成がバラエティに富んでいます。

○安井教頭

今回で今年度の学校協議会は終了となります。ご協力ありがとうございました。できましたら来年度もどうぞご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

これで、令和4年度第3回学校協議会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

19時45分終了